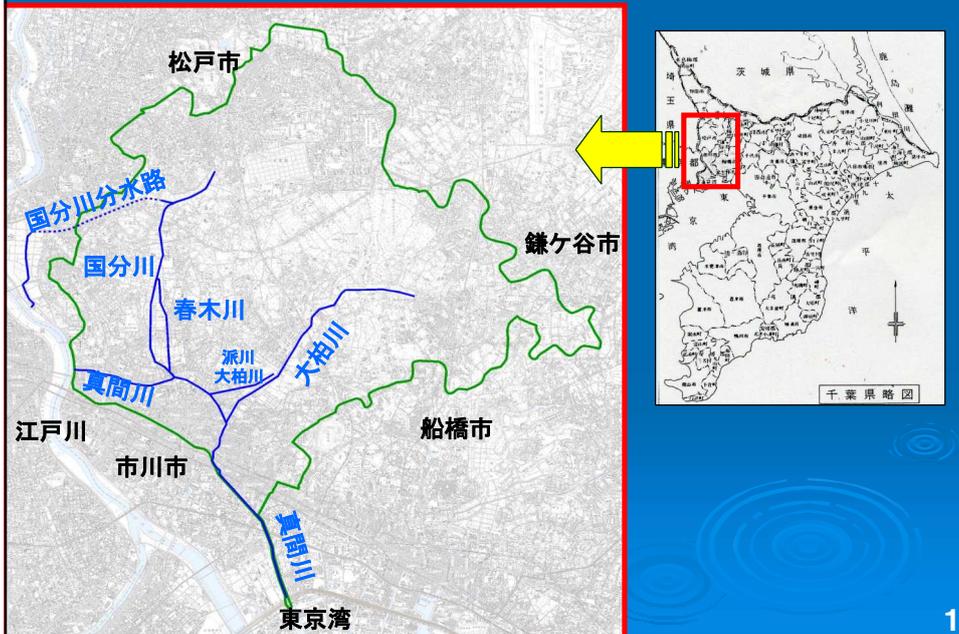


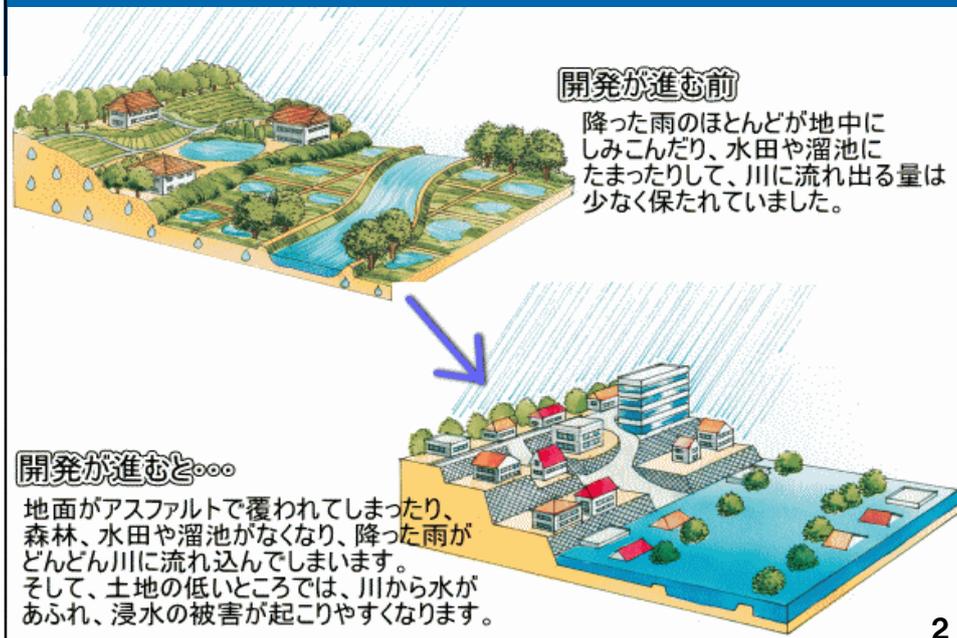
# 真間川事業再評価

平成25年1月24日  
千葉県

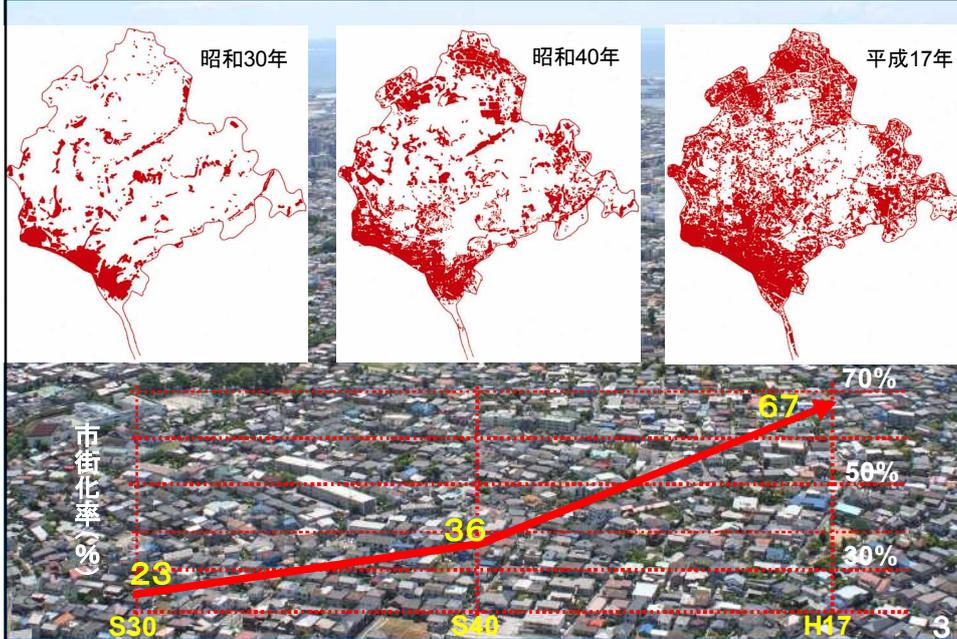
## 1. 事業評価の対象範囲



## 2. 真間川の現状 ①流域開発の進行

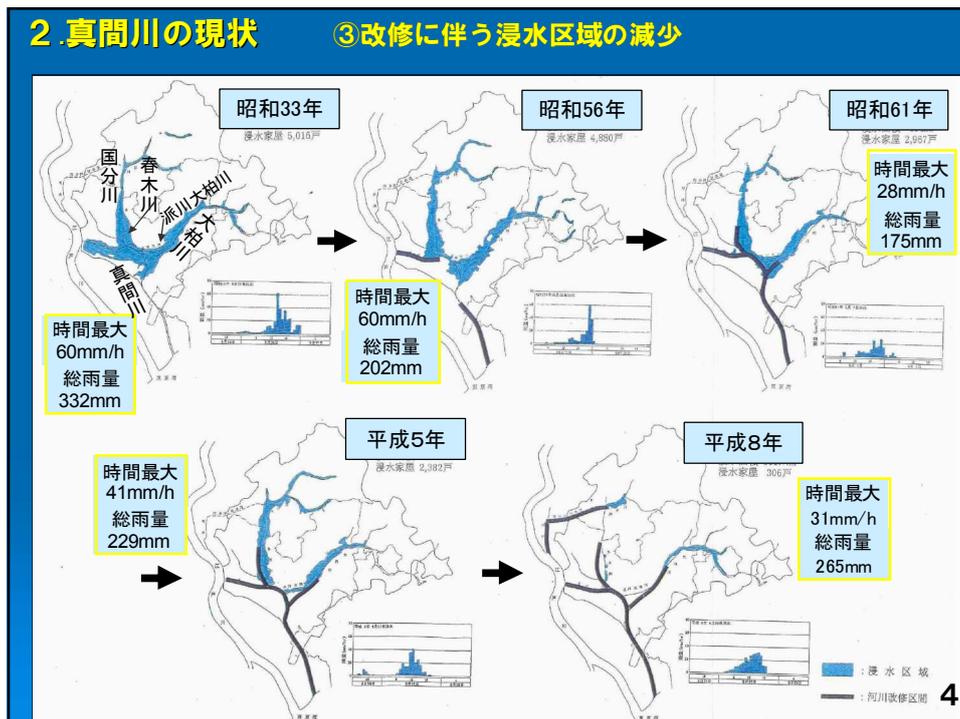


## 2. 真間川の現状 ②市街化の進展



## 2. 真間川の現状

## ③改修に伴う浸水区域の減少



4

## 3. 事業内容



5

### 3.事業内容 ① 国分川・春木川調節池



6

### 3.事業内容 ② 春木川



7



#### 4. 事業の必要性に関する視点

##### ① 事業を巡る社会情勢等の変化

#### 社会経済情勢

- 市街化の「進行」と「集中」に伴う
- 水害危険度の増大。



#### 地形状況

- 「台地部」、「低地部」を問わず、
- 開発が進行したことに伴う
- 水害危険度の増大。



10

#### 4. 事業の必要性に関する視点

##### ② 事業の投資効果

浸水想定区域の変化  
 $W=1/7.5$  (50mm/hr規模)

#### 事業実施前

河川沿いのほぼ全ての地域で浸水

- ① 想定浸水区域 806ha
- ② 想定浸水世帯 2万8千世帯



事業実施後  
 改修により  
 浸水が解消。



11

#### 4. 事業の必要性に関する視点

##### ② 事業の投資効果 (1) 事業の投資効果検討方法

###### 総便益の算定 (B)

(被害が解消される事によってどれだけの恩恵を受けるかをお金に換算した結果。)

###### 総費用の算定 (C)

(建設費や維持管理費など、事業を行う為に必要なお金)

#### 改修費用の妥当性評価

##### ※費用対効果(総便益B/総費用C)の算定。

※投資した費用に対して得られた効果

- B/C=1以下 : 投資に見合った経済効果が無い。
- B/C=1 : 投資に見合った経済効果を発揮。
- B/C=1以上 : 更に高い経済効果が発揮される。

12

#### 4. 事業の必要性に関する視点

##### ② 事業の投資効果 (2) 総便益(B)の算定

**浸水被害の解消** (時間雨量50mm(確率1/7.5規模)を含むこれ以下の洪水に対する浸水被害の解消。)

- ◆ 浸水面積 806ha
- ◆ 浸水世帯数 28,000世帯 → 浸水被害が解消する。
- ◆ 想定被害額 5,739億円

##### 総便益の算定

事業完了後、50年間にわたって治水効果を発揮するものとして、その期間の被害軽減額を算出。

⇒ 総便益は将来の効果を含めると、117,900億円となる。  
これを※現在の価値に換算すると、58,199億円と算出される。

※ 現在価値とは 将来の価値を現在の価値に置き換えたもの

**総便益 (B) 58,199億円**

13

#### 4. 事業の必要性に関する視点

② 事業の投資効果 (3) 総費用(C)の算定

これまでの建設費と今後の建設費 1,689億円  
(現在の価値 3627億円)

+

事業実施中及び事業完了後50年間にわたる  
維持管理費 684億円  
(現在の価値 419億円)



事業に要する総費用は現在の価値で 4,046億円  
(=3,627億円+419億円)

**総費用 (C) 4,046億円**

14

#### 4. 事業の必要性に関する視点

② 事業の投資効果 (4) 費用対効果の検討結果

総便益の算定 (B)

総便益  
117,900億円

現在価値化  
58,199億円

総費用の算定 (C)

総費用  
2,373億円

現在価値化  
4,046億円

※費用対効果 (総便益 B / 総費用 C) ※投資した費用に対して得られた効果  
 $58,199\text{億円} \div 4,046\text{億円} = 14.4 > 1.0$

15

## 4. 事業の必要性に関する視点

### ③ 事業の進捗状況



各河川の進捗率:延長比(%)

全体で88%完成

国分川分水路	100
真間川	100
大柏川	98
国分川	85
春木川	53
派川大柏川	0

各調節池の進捗率:容積比(%)

全体で69%完成

大柏川第1調節池	100
国分川・春木川調節池	67
大柏川第2調節池	0

16

## 5. 事業の進捗の見込みの視点

### ① 河道改修

- 河道改修における用地取得は難航箇所が少ないことから、事業の進捗を進め、早期の治水効果発現を目指す。

### ② 調節池

- 国分川・春木川調節池は、現在工事中であり、まもなく完了見込。
- 大柏川第2調節池は、用地取得を重点的に実施しており、現在8割弱を取得済み。今後は、段階的な整備を進めていく。

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- 河道改修が概ね完了の見込みであり、現段階では代替案は考慮しない。
- これまでの事業実施の中で河道改修、調節池などを計画の際には経済性を考慮し実施してきた。さらに、橋梁の統廃合を実施し、コスト縮減を図った。
- 今後の施設整備においては、最新知見に基づく工法採用等でコスト縮減を図っていく。

17

## 7.対応方針(案)

### (1) 事業の必要性に関する視点

#### ① 社会経済情勢等の変化

- ・台地部低地部を問わず、市街化の進行と集中に伴う水害危険度の増大

#### ② 事業の投資効果

- ・費用対効果  $B/C=14.4 > 1$
- ・時間雨量50mm/hr(1/7.5規模)を含めたこれ以下の浸水被害の解消  
(事業開始前時点の想定浸水面積約806haを浸水なしとする)

#### ③ 事業の進捗状況

- ・事業進捗率=88%

### (2) 事業進捗の見込みの視点

- ・計画に従い順次河道改修を完了し、残る調節池事業の進捗を図る。

### (3) コスト縮減や代替案の視点

- ・河道改修に伴う橋梁の架替えをできるだけ減らす等で、コスト縮減が図れた。
- ・改修事業、調節池整備に当たっては、最新の知見による工法選定等を行う。

⇒ 事業を「**継続**」し、計画的に事業推進を図る。